

外壁	意匠SD
標準施工仕様	

工程	材料	調合 (重量)	所要量	塗布面積	施工用具	塗回数	間隔時間 (23℃)	可使時間 (23℃)	
1.素地調整	①素地に付着しているゴミ・ホコリ・油脂類・異物は高圧洗浄等で取り除いて下さい。②軽微なチョーキングや汚れはワイヤブラシ等でケレン後、高圧洗浄で除去して、均一な状態にして下さい。③チョーキングが多い面には施工出来ません。施工前診断を行い、白亜化等級2以下を目安にして下さい。④下地の表面に微細ひび割れが生じている場合は、本仕様による施工は避け、他の工法を選択して下さい。⑤雨上がり後は、均一に乾いてから施工して下さい。⑥シーリング材に塗装する場合は変色・汚染等が生じる可能性がありますので、シーリング材は後打ちを基本として下さい。シーリング材を新規に打設しない場合は、シーリング材面を養生して下さい。⑦吹付面周辺は、汚れや損害を与えないように養生紙や養生テープ等で完全養生して下さい。								
2.下塗り	クリヤベースハイパー [油性タイプ] PXシンナー	主 剤 硬化剤	14kg 4kg 0~3%	0.12~0.14 (kg/m ² /回)	128~150 (m ² /セット/回)	刷毛 中毛ローラー エアレス	1回	4時間以上 7日以内	4時間以内
3.上塗り	タテイル美館 PXシンナー	主 剤 硬化剤	10kg 2kg 0~3%	0.10~0.15 (kg/m ² /回)	80~120 (m ² /セット/回)	刷毛 中毛ローラー エアレス	1回	-	8時間以内

●クリヤベースハイパー[油性タイプ]

(2液弱溶剤形意匠サイディング用高付着プライマー)

■荷姿
18kgセット
主 剤: 14kg
硬化剤: 4kg

■色
透明

■適用基材

- ・光触媒サイディング ・無機系サイディング
- ・焼付金属サイディング ・意匠サイディング全般

■施工前診断(タテイル美館の施工に当たり、施工前診断による調査は必ず実施して下さい。)

- ・チョーキングや汚れが目立つ前に塗り替えることが最適です。外観上は全く異常が認められないサイディングであったとしても、肉眼では見られないクラックが認められる場合があります。
- ・日本窯業外装材協会発行の「維持管理のしおり」の中で、窯業系サイディング(外装材)は、5年以上経過したら塗り替えを実施するように明示してあります。5年経過後早い時期に塗り替えを行うことが必要で、時期が遅くなるとチョーキング等の影響からタテイル美館による改修が不可となります。
- ・タテイル美館はクリヤー(透明)仕上げとなるため、下地によってはその下地の状況が反映され汚れやチョーキングが著しいムラになり、クリヤー仕上げが難しいものとなります。付着不良・白化・剥離の原因ともなります。
- ・施工に適さないチョーキング面には絶対に施工しないで下さい。付着不良・白化・剥離が発生する恐れがあります。無理せず、タテイル又はタテイルサンクールによる塗り替えに変更して下さい。
- ・施工前診断は、JIS K 5600-8-6白亜化の等級に準拠し、対比評価して下さい。(JISハンドブック等を使用して下さい。)

●タテイル美館

(弱溶剤2液反応硬化形無機塗料クリヤータイプ)

■荷姿
12kgセット
主 剤: 10kg
硬化剤: 2kg

■色
透明

■適用基材

- ・意匠サイディングボード

- 注意**
- ・クリヤベースハイパー[油性タイプ]及びタテイル美館は、2液反応硬化形ですので、主剤と硬化剤の調合を守り混合し、十分に攪拌して下さい。
 - ・素焼きのような多孔質のタイルやレンガタイルには施工を避けて下さい。
 - ・クリヤベースハイパー[油性タイプ]は陶磁器質タイル面での漏水やエフロを抑制するものではありません。
 - ・クリヤベースハイパー[油性タイプ]を上塗材として使用することは避けて下さい。
 - ・下地の表面が著しく劣化し、脆弱になっている場合は、施工出来ません。
 - ・施工にあたっては、同一方法で、入り隅・出隅等見切りのよいところまで仕上げして下さい。同一壁面途中での塗継ぎはムラの原因になります。
 - ・チョーキングが目立つ下地に対して塗装しないで下さい。仕上がりにムラが発生し、塗装後に剥離等の原因となる恐れがあります。
 - ・シーリング面に塗装する場合は変色・汚染等が生じる可能性がありますので、シーリング材は後打ちを基本として下さい。シーリング材を新規に打設しない場合は、シーリング材面を養生して下さい。
 - ・タテイル美館は超低汚染タイプの塗料ですが、建物の部位(斜壁・笠木のないパラペット・日の当たらないペランダの内壁等)によっては、十分な低汚染性を発揮出来ない場合があります。
 - ・クリヤベースハイパー及びタテイル美館は、弱溶剤形のため取扱いの際は火気に注意し、消防法及び労働安全衛生法等を厳守して下さい。
 - ・素地調整や水洗いが不十分だと剥離や光沢が出ない等の本来の塗膜性能を発揮出来ない恐れがあります。塗替えでは必ず高圧洗浄やブラシ等を使い、付着物や劣化塗膜を十分に除去して下さい。
 - ・水洗い後は日数を空け十分に乾燥させて下さい。また塗装面が雨や霧等で濡れている場合は、十分に乾燥するまで塗装しないで下さい。
 - ・塗装しない箇所は前もって塗料が付着しない様にしっかり養生して下さい。塗装箇所以外に塗料が付着した場合は直ちに拭き取って下さい。
 - ・希釈は仕様の調合割合を守り十分に攪拌して下さい。調合割合を誤ると光沢や隠蔽性が悪くなります。
 - ・エアレスでの施工は飛散により周囲を汚す原因になる事があります。飛散防止対策は確実に行って下さい。
 - ・常に結露が発生する地域・時期・場所での塗装は避けて下さい。
 - ・施工環境が気温5℃以下の場合・湿度85%RH以上の場合・結露が発生する可能性がある場合・外部の施工で降雨が予想される場合には施工を避けて下さい。仕上がりが不良、剥離などの不具合が発生し、本来の塗膜性能を発揮出来ない恐れがあります。
 - ・夜露の早く降りる地域や季節では早めに塗装を終えて、十分に乾燥時間を確保して下さい。
 - ・工程間の間隔時間は仕様を厳守し、降雨後は下地や主剤の乾燥時間を確認してから塗装して下さい。
 - ・塗料は冬期は屋内で、その他の季節は直射日光や雨に当たらず、また子供の手の届かない場所に保管し管理して下さい。
 - ・塗料や塗料の付いた布類及び使用済み容器等を廃棄する場合は、関連法規を厳守し、産業廃棄物として処分して下さい。(排水路・河川・下水・土壌等を汚染する場所へ廃棄しないで下さい。)
 - ・材料は、出来るだけ皮膚に触れないようにし、必要に応じて防塵マスク・保護メガネ・保護手袋を着用して下さい。
 - ・塗装後は、手洗い及びうがいを充分に行って下さい。
 - ・塗装中・塗装後は充分換気を行って下さい。
 - ・目に入った場合には、直ちに多量の水で15分以上洗い、出来るだけ早く医師の診断を受けて下さい。
 - ・皮膚に付着した場合には、直ちに石鹸と多量の水で洗い落とし、痛み又は外観に変化があるときには医師の診断を受けて下さい。
 - ・臭い・蒸気等を吸い込んで気分が悪くなった場合には、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診断を受けて下さい。
 - ・商品を取り扱う際には、各商品の容器に記載されている注意事項をよく守って下さい。又、詳細な内容は、安全データシート(SDS)をご確認ください。